

1年生 工業技術基礎
左官マイスターから学ぶ授業

左官マイスターと一緒に、壁面に珪藻土(けいそうど)を塗る授業を行いました。1回目は、下塗り、2回目に仕上げ塗りをしました。生徒たちは、初めて塗って、マイスターの先生との違いを知り、どうしたら、先生のようにできるかを考えて行いました。授業終了時には、「もっとやってみたい。左官の仕事に就きたい。」という声が上がりました。



先生の実演を注目します。ため息がでるほど美しく塗られていきます。



自分で決められたエリアを仕上げていきます。コテ返しがなかなかうまくいなくて、苦戦しています。



少しでも先生の見本に近づきたいと塗っていきます。

1年生工業技術基礎 建具マイスターから学ぶ授業

建具マイスターであり、現代の名工である友国先生と杉村先生から指導を受けました。初めて「かながけ」をして、薄く削ることができて、削ったものを持ち帰っていました。



↑先生によるお手本の削り方
←交代で削りました。良い木の香りが広がりました。



←友国先生から「必要な道具は自分で考える」言われました。電気ドリルとかんなを組み合わせ、丸棒をつくることも体験させていただきました。



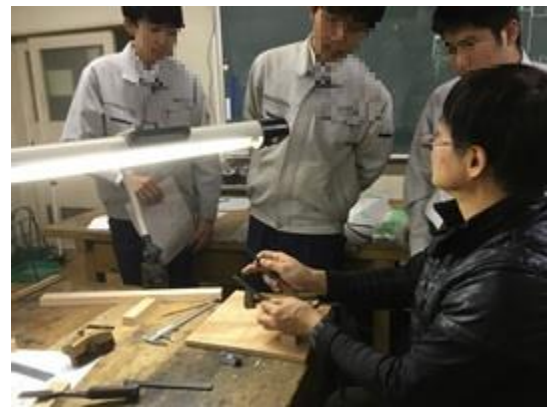
つくり方の説明をきいて、治具を用いて、一人ひとつ組子をつくります。

家具マイスターから学ぶ

技能検定家具3級実技試験合格に向けて、家具マイスターの先生のご指導を受けることができました。生徒たちは、使用する材料を精度良く仕上げ、美しい仕上がりにするために、墨付けの段階から、細かい点に注意する大切さ、ほぞ穴の掘り方、のこぎりの使い方について学ぶことができました。これから、2月の実技試験に向けて、取り組んでいきます。



シラガキや毛引きの使い方、精度が変わるため、細部にまで注意が必要なことを学びます。



先生の道具の使い方は、自分とどのように違うのかを知りたいため、手元を見ようと、場所を動きながら見ていきます。

大工マイスターから学ぶ技能検定3級大工実技試験合格に向けて

大工マイスターから、技能検定3級大工実技試験の課題について学んでいます。1月にある実技試験に向けて、練習を始めています。45度に振れた振れた垂木の墨付けについて、差し金の裏と表を使い分けていくことだけでなく、なぜそのようになるかについても学びます。数学で学ぶ三角関数と大工の規矩術(きくじゅつ)のつながりもあります。



平垂木から45度斜めに振った垂木の墨付けが今回のポイントです。



木工塗装マイスターから学ぶ

木工塗装マイスターから、塗装方法について学びました。家具などをつくって、美しく塗装できれば、作品づくりの幅が広がります。刷毛の動かし方、溶剤の知識などたくさん学ぶことができます。



手を動かして、どこができていないのかを教えてくださいました。



←先生作のお手本

↓先生作の、ガラスを使っていない絵の額。なぜ、ガラスのように光って見えるのか不思議です。

←漆塗りの時代から現在の木工塗装までの幅広いお話もきくことができました。

